柏崎から東京2020オリンピックへ

2020年は東京オリンピックが開催されます。そこで、世界で活躍する柏崎ゆかりのアスリートに、オリンピックに向けた意気込みをインタビューしました。4大会連続のオリンピック出場が内定した、セーリング日本代表（内定）富澤慎選手。東京2020オリンピックでの日本代表入りを目指す、志水祐介選手・小出未来選手それぞれの選手の思いに迫りました。このインタビューは、ＦＭピッカラの新春特別番組として放送された内容のダイジェスト版です。ＦＭピッカラ再放送は、1/11㈯の12:00～13:00です（76.3ＭＨz）。

インタビュー

セーリングRSX級日本代表 富澤慎選手

富澤慎選手紹介

1984年7月19日柏崎市生まれ（35歳）松波保育園、荒浜小学校、第一中学校、柏崎工業高等学校卒業後、関東学院大学へ進学、現在は、トヨタ自動車東日本㈱所属。小学2年生からセーリングを始める。高校入学時は水球もしていたが、2年生からセーリングに専念。日本のトップアスリートとして活躍。オリンピックは、北京2008大会、ロンドン2012大会、リオデジャネイロ2016大会に出場。東京2020大会で4大会連続出場内定。

高橋（ＦＭピッカラ） 富澤選手がセーリングを始めたきっかけはなんですか？

富澤 小学2年生の頃、もともとセーリングが好きな父から教わったことがきっかけです。風を受ける帆のことをセールというのですが、最初は、セールを持ち上げるのは重いし、濡れるしで、セーリングをするより、ビーチの砂浜を掘って遊ぶ方が楽しかったですね。今は子ども用のセーリングの道具

があるのですが、当時は無かったので、大人用の道具を使っていました。

市長　小学2年生で大人用の道具だと大変じゃない？

富澤　大人用の道具だと無理なので、父が半分に切って、リメイクして子ども用のサイズの道具を作ってくれました。

市長　お父さんが作ってくれたんですね。それはすごいね。

高橋　柏崎時代には、かしわざき風の陣の大会にも出場されていたんですよね？

富澤　そうですね。当時のかしわざき風の陣は、セーリングの大学生のユニバーシアードの予選になっていたんです。結構大きな大会でした。出場したのは、高校生のときからです。

高橋　世界の海で戦われていますが、海によって戦い方に違いはあるのですか？

富澤　海は、いろんな顔を持っています。日本海でも、太平洋でも違う。もちろん、海外に行ったらまた違います。それが面白いです。

高橋　事前に波を見て、戦略を決めるのですか？

富澤　はい。海外遠征は大会の2週間前に行き、合宿をして大会に臨むのがセオリーになっています。

市長　セーリングは、オランダやフランスが強豪国だと聞いたのですが、オランダはあまり風が強いイメージがなかったけれども、考えてみれば風車が回っているわけだから風があるんだなと思ったし、フランスはドーバー海峡があるから、やはり風があるんだろうなと思いました。やっぱり同じヨーロッパでもフランスの風もオランダの風もみんな違うものですか？

富澤　そうですね。フランスでも、北フランス、南フランスで違います。南はカラッと晴れて気持ちの良い風、北は雨が多く、冷たくて重い風のイメージですね。

高橋　それぞれそういったところを見ながら、戦っているわけですね。2019年RS:X級世界選手権総合10位。日本セーリング連盟が定めた選考指定大会の得点がトップとなり、選考規定をクリア。東京オリンピック日本代表に内定し、4大会連続のオリンピック出場を決めました。おめでとうございます。

市長　本当におめでとうございます。成績を見せてもらったのですが、富澤選手の成績がダントツですよね。桁が一桁違ったもんね。

富澤　ありがとうございます。

市長　大変失礼かもしれませんが、35歳になって、力そして技術が抜きんでている。それを維持されているのがすごいと思います。

高橋　そうですよね。ずっと日本のトップを維持しているわけですけれども、リオデジャネイロオリンピックが終わった後、東京オリンピックに向けて、どのように活動されてきたのですか？

富澤　オリンピックに3大会出場しましたが、ずっと「絶対に入賞したい」と考えて臨んでいました。東京では、絶対入賞するしかないし、夢のメダルを叶えるしかないと思っています。そこで今まで通りやっていても、大きな変化はないだろうと考えて、メダリストであるイギリスのニック・デンプシー選手にコーチを依頼しました。

高橋　このニック・デンプシーさんは、リオデジャネイロオリンピックでは、銀メダルを獲得された方なんですね。この方にコーチついていただいたことで、ご自身でも変化は感じられたんですか？

富澤　細かい技術的な指導はもちろんですし、海外のトップ選手とのコミュニケーションを親密にして、常にトッ

プ選手の中で練習できる環境を用意してくれました。

高橋　技術レベルが上がったこともそうですけれど、やはり東京オリンピックが、富澤さんが普段慣れ親しんでいる江の島で行われるというのもポイントですよね。

富澤　すごいポイントだと思います。18歳まで柏崎で過ごしてきて、それ以降17年間江の島を拠点に、鎌倉の付近で過ごしてきました。ある程度、海の顔は把握しているので、絶対有利になると思っています。昨日も高校の友達と食事に行ったのですが、必ずチケットを取って応援に行くと言ってくれました。今活動している鎌倉にも大勢仲間がいるので、そういう人たちの前でメダルがとれるようなレースがしたいと思っています。

市長　富澤選手は、柏崎工業高校のご出身ですが、先日、柏崎工業高校創立80周年の式典で、同窓会長も、校長先生も、富澤選手のオリンピック出場のことをお話になりました。富澤選手の4回目のオリンピック出場に、工業高校の生徒もすごく期待していると思います。

富澤　ありがたいことですね。

市長　お父さんがきっかけで、セーリングを始められたということですが、お父さんもまだまだ現役で、セーリングをしていると伺ってビックリしました。それから富澤選手のおばあちゃんを私はよく知っているのですが、富澤選手のことをうれしそうに楽しそうに自慢してお話しされています。そういった離れていてもずっと応援していてくれるというのは大事なことですよね。さっきのお話のように、工業高校の同級生が集まって応援してくれているしね。大会の日は決まっているの？

富澤　7月の後半から8月の頭にかけての5日間です。4日間毎日予選レース、最終日は決勝レースです。

市長　機会があったらぜひ私も応援に行きたいな。

高橋　セーリングの大会の観戦は岸から見るのですか？　双眼鏡などで観戦するのですか？

富澤　予選は、選手が一番良いコンディションが出せる沖でやりますが、決勝レースは見に来てくれた方のために、目の前で行います。決勝は、上位10人しか出ることができません。絶対出場できるように、意地でも外さないようにします。

高橋　柏崎の海で育った富澤選手ですが、富澤選手にとって柏崎の海はどんなところですか？

富澤　週末必ずビーチに行って、セーリングをしたり、砂浜で遊んだりしていたので、一緒に育ってきた海だなと思います。

高橋　ちなみにどの辺りの海で遊んでいたんですか？

富澤　生まれたときは松波に住んでいたので、そっちの方の海、途中から中央海岸の方に引っ越したので、中央海岸の海で遊んでいました。

市長　私も一中だったから裏浜で遊んでいましたよ。

高橋　柏崎の海で、世界で活躍する選手が育っていっているというのはうれしいことですよね市長。

市長　うれしいことですよね。中央海岸は当時は裏浜と呼ばれていました。私も子どもの頃は、はだしで、海水パンツ一つで泳ぎに行ってましたから、身近な海で育ち、オリンピック選手になるというのは、市長としてはもちろんですが、一市民としても、裏浜で遊んだ者としても本当にうれしいです。

高橋　柏崎からセーリングをしてくれるお子さんが出てくるとうれしいですよね。

富澤　その通りですね。それに関しては、私の仕事かなと思います。東京オリンピックの本番が終わったら考えることですが、私の第二世じゃないですけど、柏崎の海からオリンピックを目指すような選手が出てきてくれたらいいなとずっと思っています。

市長　工業高校の生徒も富澤選手がセーリングをしている姿を見れば、かっこいいなと憧れると思うんですよね。やっぱり憧れが、子どもたちがセーリングに向かうきっかけになると思うんですよ。オリンピックが終わってからの話になりますが、ぜひ私としては、何度も柏崎に足を運

▲市長表敬訪問（左から市長、富澤慎さん、富澤慎さんのお父さん）

んでもらって、子どもたちに、夢を与えてもらいたいと思っています。

富澤　海には夢がいっぱい詰まってますからね。

高橋　富澤選手のお父さんもセーリングを続けているそうですが、セーリングは年を重ねてもずっと続けられるスポーツなんでしょうか？

富澤　セーリングは、競技の一面とレジャーの一面があります。競技だと苦しいところもあるのですが、レジャーだと子どもから高齢の方まで、生涯スポーツとして楽しんでもらえるのでお勧めです。

市長　冬であっても富澤選手のお父さんも柏崎の海でセーリングされるということです。ウエットスーツは冬でも暖かいそうです。お年を召しても、安全に海を楽しんでもらえればと思います。そういった意味でも富澤選手の活躍が、若い人たちだけでなく、同世代、50代、60代にも夢を与えていると思います。

高橋　富澤選手から市民の皆さんにメッセージをお願いします。

富澤　東京オリンピックでは、メダルに絡めるようなレースを絶対にします。テレビからでも、現地からでも、ぜひ見ていただいて、応援していただければと思います。

インタビュー

東京2020オリンピックでの日本代表入りを目指す 志水祐介選手 小出未来選手

志水祐介選手紹介

熊本県出身。中学2年生で水球を始める。現在ブルボンウォーターポロクラブ柏崎（以下、ブルボンKZ）に所属。2008年水球日本代表に選出。2012年から日本代表主将。リオデジャネイロオリンピックでは、水球日本代表の主将を務める。2017年の日本選手権で左肩腱板断裂のけがを負うも、翌年の日本選手権で公式試合に復帰。2019年の日本代表の試合では、インターコンチネンタルカップで2位、ワールドリーグスーパーファイナルで6位、そして世界選手権で11位の成績を収める。

小出未来選手紹介

千葉県出身。高校1年生で水球を始める。新潟産業大学入学で柏崎へ移住、ブルボンKZに所属。新潟産業大学卒業後、2012年水球日本代表に選出。2016年イタリアのチームにレンタル移籍をしてプレーし、2019年の日本代表の試合ではインターコンチネンタルカップで予選5位、世界選手権では13位の成績を収める。

高橋　志水選手は海外でのプレー経験も多数お持ちですが、海外でプレーして感じたことはありますか？

志水　結果を残さないと選手としては切られてしまう、厳しい環境の中でやっています。各国の選手がトップチームに集まっているので、私も日本代表として、そして日本人の代表として世界で戦わないといけないという誇りを持ってやっています。アジアの選手は海外の選手にナメられてしまうことがあるので、私がそれを変えるという思いで海外に挑戦していました。

高橋　小出選手は高校1年生で水球を始めました。小出選手が水球を始めたきっかけはなんですか？

小出　元々競泳をやっていて、行き詰まった時に両親の勧めで、水球のクラブチームの体験に行きました。その時、クラブのコーチに「オリンピックに出てみたくないか」と声を掛けられました。もちろん鵜呑みにしたわけではなかったんですが、競泳をやっていたときからオリンピックに出てみたいという気持ちがあったので、希望も持ちながら、水球にどんどんのめりこんでいきました。

高橋　体験でコーチが小出選手の力を見たわけですね。

小出　体も日本人の選手にしては大きいし、競泳も球技（バスケットボール）もやっていたので、他の選手よりもボール感覚がありました。そういったところを見て声を掛けてもらったのかもしれません。

高橋　水球をやってみて、楽しかったですか？

小出　すごく楽しかったです。水の中にボールがあるだけでこんなにも違うんだと感じました。

高橋　小出選手は、水球日本代表として、どんな思いで競技をされていますか？

小出　いろいろな人に支えられて水球をやれていると非常に強く感じています。自分がチームに貢献していくことで、いろいろな人が喜んでくれるし、恩返しができると思って水球に取り組んでいます。「頑張ったね」と声を掛けてもらえることが、日々の活力にもなっています。

高橋　どんな気持ちで水球をしていますか？

小出　毎日の練習が自分を作っていると感じているので、どんなにつらいときでも、ここでもう一歩前に進めるようにとトレーニングに取り組んでいます。

高橋　志水選手は日本代表としてどんな思いで競技をされていますか？

志水　小出が言ったこともそうですし、日本代表として競技に向かうときには、日の丸を胸に付けています。本当は競技を楽しまないといけないのですが、日の丸の重みや、日本代表として結果を残さなくてはならないというプレッシャーは非常に感じています。それを力にしていかなければならないと思っています。いろいろな方が見ているので、競技の中でも、私生活でも、お手本になるようなことをしていかなければならない。スポーツ選手というのは子どもたちに夢を与えることが仕事だと思っているので、そういったところを意識してやっています。

高橋　ブルボンKZの選手たちを見て、水球を始めた子どもたちも多いですものね。

志水　そうですね。柏崎は水球をすごく応援してくださって、触れ合う機会もたくさんあります。そのおかげで子どもたち、そしていろいろな選手が成長していますし、これからどんどん日本代表選手も増えてくると思います。そういった環境を作っていただいたことにとても感謝をしながら僕ら選手は憧れの存在になることが大事なのかなと思います。

高橋　志水選手は、けがをされました。けがからの復帰を経て、今の気持ちはどうですか？

志水　リオデジャネイロオリンピックに出るときは、オリンピック出場という自分の夢を達成することができたという思いが大きかったです。次は東京オリンピックに向けてさらに頑張ろうと思ったときに、完治まで1年半かかる、選手生命に関わる大けがをしてしまいました。本当に厳しい世界だと思ったのが「もう志水選手は引退だね」「これじゃ現役復帰できないね」と今までずっと追いかけてきてくれたメディアや、注目してくれていた方が、ぱっと目の前からいなくなったことです。もう自分の存在が無くなったかのように思いました。そんな中でも応援してくれたのが柏崎の皆さんでした。「志水だったら東京オリンピック復帰できるから大丈夫だよ」「そんなに落ちこまなくて大丈夫だよ」と声を掛けてくれました。そのおかげで私は復帰できたと思います。今回の東京オリンピックは自分の夢のためよりも、今まで応援してくださった方、そして私のことを信じて支えてくれた柏崎の皆さん、ケガをサポートしてくださった人たちに、恩返しをするために出るオリンピックだと思っています。私の

水球選手としての集大成を見てもらうため、オリンピックに向けて頑張りたいです。

高橋　小出選手は日本女子チームが初のオリンピック出場することについて、今の率直な気持ちはいかがですか？

小出　日本代表の中から、オリンピック代表選手を選考すると通達が来ているので、私がオリンピックの舞台に立てるとまだ決まったわけではありません。ただ、自分が世界選手権で成し遂げてきたことは少なからず自信につながっています。オリンピックではよりよい成績を残すために、今までの経験を生かし、譲らずにしっかりと強い気持ちを持って、練習に取り組んでいきたいと思っています。

高橋　櫻井市長からお二人に質問が来ています。キャプテンを務めるなど、チームの中でも中心人物であるお二人は、リーダーシップをどのように取っていますか？

小出　日本代表の中では、私は上から3番目の年齢です。でも、実は日本代表としての経験は他の選手よりも少なくて、日々選手みんなから声を掛けてもらって成り立っています。なので、チームの中心というポジションでもありますが、自分が貢献できることを考えて、オフェンスの要としてチームを引っ張っていくことが自分の仕事なのかなと感じています。

志水　非常に難しい質問ですね。まず自分が中心人物だとは正直思っていません。キャプテンを務めさせていただいていますが、自分を中心という存在にしてしまうと、なかなかチームってまとまらなくて。リーダーシップというのは、チームがつらいときやきついところを自分がしっかりとやって、楽しいところや楽なところをみんなにやらせてあげるということがまず第一前提にあります。あとは、一人一人の個性をしっかり見抜いて、自分が自分がではなく、彼らがいいようにできることを考えてあげることが私が大事にしているポイントです。特に若い選手は思いっきりやればいいと思います。その分私たちのようなベテランや、チーム経験のある選手が大変なところや、チームの勢い、流れなどをフォローしてあげればいい。なのでリーダーシップをどのようにとるか、あまり考えてやるものではないと思います。日常生活や、日々の行動を見て、この選手・この人についていきたいと思うので、そういうことを大事にしていく必要があると思います。

高橋　もう一つ市長から質問が来ています。東京オリンピックの次はパリオリンピック。ジュニア選手の育成に対し、どのようなアプローチをしていますか？

小出　柏崎の良い環境で練習させてもらえているジュニア選手を、どうやってよりよく成長につなげていくかは、やはり自分がプレーをしている姿を見てもらうのが一番いいと思います。伝えること・見せていくことの両方を努力していこうと心掛けています。

志水　パリオリンピックは私は引退しています。ジュニア選手の育成はとても大事です。東京オリンピックで区切りをつけるのではなく、今後日本水球をどれだけメジャーにしていくかというのは、パリオリンピックが非常に大事になります。柏崎のように、小・中・高・大学・社会人と組織として一体化しているのは全国でもないので、柏崎にあるブルボンKZが、日本の水球界を今後引っ張っていく存在だと思います。まず東京オリンピックで子どもたちに「水球ってすごいんだな」「私たちもああいう場に立ちたいな」と思ってもらえるようなことを私たちがまず選手としてやって、その後、私たちの持っている技術を伝えていくことが必要になってくると思います。

高橋　2020年の目標について、教えてください。

小出　私は小学生の頃作文に「オリンピックに出場する」と書いていました。その夢が今手の届くところまで来ていると感じています。作文を書いている小学生の自分に、あとちょっとだからと伝えたいです。夢を叶えるために今まで頑張ってきました。ひたすら努力し続けることで、これからも頑張っていきたいと思います。

志水　オリンピックに出場して、メダルを獲得したいと思います。2020年の水球は、私の集大成だと思います。これが最後の一年になると思いますので、自分が今まで積み上げてきたものを出し切って終わりたいと思います。

高橋　お二人から市民の皆さんにメッセージをお願いします。

小出　水球女子日本代表はオリンピック出場経験のない、まだこれから強化が必要だという評価をいただいたチームです。選手一人一人がオリンピックに向けてしっかりとしたトレーニングを積んで、出場するだけではなく成績もしっかりと狙ってプレーしていけるように心掛けます。ぜひ柏崎の力を女子水球日本代表に届けていただければと思います。応援よろしくお願いします。

志水　私は柏崎に来て10年になります。柏崎市民の一員として、この東京オリンピックで自分の頑張っている姿を皆さんにお見せしたいと思いますし、皆さんの支えや支援、多くの応援があったからこそ私はここまでやってこれていると思います。ぜひ皆さんに最後のオリンピックの姿を見てもらい、まずは私の感謝の気持ちを感じてもらって、そして試合も良い結果を残せるよう頑張りますので、ご声援よろしくお願いします。

津崎明日美さんが、東京 2020 オリンピック水球競技の審判員に決定！

広報かしわざきの連載「柏崎的激レアさんに会ってきた。（8月号）」で紹介した、ブルボン KZ でコーチを務め、国際審判員としても活躍されている津崎明日美さんが、東京オリンピック水球競技の審判員に選ばれました。東京オリンピックの水球競技の審判員は、世界から男女計 24 人が選ばれますが、日本から選ばれたのは津崎さん 1 人。オリンピックの水球競技で日本人女性が審判員を務めるのは史上初です。東京オリンピックで審判員を務めることを目標にしてきた津崎さんは「初めての大舞台なので緊張やプレッシャーもありますが、メインとなる選手が納得する判定ができるよう、しっかり準備をして挑みたいと思います」と意気込みを見せています。柏崎発・オリンピック水球競技、史上初の日本人女性審判員、津崎さんの活躍にも期待しましょう！

津崎明日美さん紹介
熊本市出身。中学 1 年生から大学 4 年生まで水球選手として活躍。社会人になってからは、横浜市でジュニア選手の指導を行い、その後審判員に転身。柏崎市に移住後、水球クラブチームのブルボン KZ に所属。審判員とジュニア選手の指導を行う。2019 年 3 月に国際大会の審判員に選ばれ、その後東京オリンピック審判員に決定。